

4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境

○は学識経験者による意見聴取会に付議した事業
 (「第4章 教育委員会意見聴取会」参照)

	事 務 事 業 名	ページ
1	学びの教室事業	P58
2	大谷公民館 講座開設事業（男性参加の促進）	P60
③	間々田公民館 家庭教育学級 ふれあい子育て楽級	P62
4	寒川公民館 学級・講座等開設事業	P64
5	中公民館 学級・講座開設事業	P66
6	穂積公民館 学級・講座開設事業	P68
7	桑公民館学級（高齢者・家庭教育）開設事業	P70
8	絹公民館 学級・講座等開設事業	P72
9	小山市あいさつ運動	P74

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No.	11
-----	----

1. 基本情報										
<1> 事業・業務名	学びの教室事業				<2> 事業・業務の別	事業				
<3> 選定基準	④ その他				<4> 継続業務・新規業務の別	継続評価				
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)	教育委員会				
	中項目	3-4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境			<7> 担当所属	生涯学習課				
	小項目	3-4-1 生涯学習			<8> 担当係等	生涯学習係				
	施策	生きがいや楽しみを創造し生活を向上させるための学習の充実								
<9> 根拠法令・計画等					<10> 関連・類似事業					
<11> 会計	一般		会計		<12> 予算科目	10 款 4 項 1 目				
<13> 実施期間	平成27 年度 ~		年度		<14> 全体事業費	千円				
<15> 実施手法	直営				「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -										
<16> 事業・業務の概要	社会教育指導員・学習支援ボランティア等による生徒への学習支援を行う。									
目的	<17> 事業・業務の目的	生徒の学習習慣の確立と基礎学力の定着を図るため、学びの教室を開催する。								
	<18> 事業・業務の対象	市内中・義務教育学校の生徒								
手段	<19> 令和4年度の活動内容	4公民館(中央・大谷・豊田・絹)、3交流センター(小山城南・間々田・桑)を学習会場として、5月~3月の月2回土曜日の午後実施した。また、中央公民館において、夏休み(8月)平日の午前3回実施、全25回の実施となった。								
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			達成率(%)	
		開催回数	回	24	18	25	25			
成果	<21> 事業・業務の成果	1会場当たりの平均参加者数は4.2人で、前年度より0.5人増となった。参加者の4割以上が、複数回来室している。参加者からは、「分からないところを1対1で教えてくれるので、聞きやすいし、分かりやすかった」「冷暖房完備で、静かな場所なので、長時間集中でき、勉強がはかどる」等の意見が多数寄せられた。								
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			達成率(%)	
		延べ参加者数	人	720	460	720	661			
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度			投入率(%)	
			千円	3,792	3,536	3,673	3,483			
		事業費等	千円	815	559	838	648	77.3%		
			財源内訳	国・県補助金	千円	190	190	190	296	155.8%
				地方債	千円					
				その他	千円					
		一般財源	千円	625	369	648	352	54.3%		
人件費	千円	2,977	2,977	2,835	2,835	100.0%				
正職員	千円 × 人工	7,616 × 0.2		7,515 × 0.2						
		1,816 × 0.8		1,665 × 0.8						

3. Check - 評価 -							
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1.妥当である			
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		1.妥当である			
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		2.変わらずにある			
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1.妥当である			
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある			
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？		2.中位			
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある			
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		2.検討は困難である					
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		4.該当しない				
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由	各中・義務教育学校との連携を密にし、生徒が参加しやすい開催期日を設定するとともに、事業に対する生徒の理解を深めることにより参加者増につなげる。併せて、一人一人の生徒に合った支援方法の工夫により、参加者の満足感を高めていくことで、リピーターを増やしていく。			
4. Action - 改善 -							
事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点		会場の状況に合わせ、学習支援ボランティアの配置を工夫し、支援を充実させるとともに、実施状況を各学校に丁寧に伝え、学校及び生徒の理解を進める。				
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	2.変更	理由	今年度の実績を踏まえ、開催日の設定や学習支援ボランティアの配置を見直し、より参加しやすいものとなるよう取り組みを進めてほしい。		
	<36> 2次評価	教育部長	2.変更	理由	学校との連携を強化し、事業に対する学校及び生徒の理解を深め、参加者の満足に繋がる支援を充実させ、参加者増を図ってほしい。		
5. Plan - 計画 -							
事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針		今年度の実績をよく検討し、各中・義務教育学校との連携を強化し、情報共有をしながら、参加者を増やすとともに、支援を充実させる。 ・実施期日の見直し ・学習支援ボランティア配置の工夫 ・生徒のニーズに合った支援の充実(社会教育指導員と学習支援ボランティアの意見交換・情報共有)				
	<38> 活動・成果目標		・参加者数の1割増加 ・各中・義務教育学校との連携強化による参加者へのより充実した支援(特に、配慮を要する生徒のニーズに応じた支援の充実)	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
				事業費等	千円	3,949	3,949
				人件費	千円	2,835	2,835

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No.

1. 基本情報					
<1> 事業・業務名	大谷公民館 講座開設事業(男性参加の促進)			<2> 事業・業務の別	事業
<3> 選定基準	② 令和4年度に事業内容(対象・手段等)を見直した事務事業			<4> 継続業務・新規業務の別	継続評価
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と 学び・文化を育むひとづくり		<6> 担当部(局)	教育委員会
	中項目	3-4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境		<7> 担当所属	大谷公民館
	小項目	3-4-1 生涯学習		<8> 担当係等	業務係
	施策	生きがいや楽しみを創造し生活を向上させるための学習の充実			
<9> 根拠法令・計画等			<10> 関連・類似事業		
<11> 会計	一般	会計	<12> 予算科目	10 款 4 項 2 目	
<13> 実施期間	年度 ~	年度	<14> 全体事業費	千円	
<15> 実施手法	直営		「その他」の場合 ()		

2. Do - 実施 -

<16> 事業・業務の概要	大谷公民館で実施される講座の男性受講率の向上									
目的	<17> 事業・業務の目的	女性受講率が高い公民館講座において、男性の受講率を上げることにより、男女共同参画社会の実現につながる。								
	<18> 事業・業務の対象	小山市内、主に大谷地区の男性住民を対象とする。								
手段	<19> 令和4年度の活動内容	男性住民も参加しやすいようなジェンダーフリーなネーミングの講座を開設した。								
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
		講座の開設数	講座	計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
			12	10	10	10	100.0%			
成果	<21> 事業・業務の成果	コロナ禍による感染症流行予防のため、募集人数の削減を行った上での開催であった。男性参加率は過半数の講座で2割を超え、内3講座で4割、1講座で7割を超えた。								
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
		男性受講率	%	計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
			50	13	50	29	58.0%			
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度		投入率(%)		
			千円	計画	実績	計画	実績			
				千円	1,062	993	1,041	921	88.5%	
			事業費等	千円	300	231	289	169	58.5%	
			財源内訳	国・県補助金	千円					
				地方債	千円					
				その他	千円					
	一般財源	千円		300	231	289	169	58.5%		
	人件費	千円	762	762	752	752	100.0%			
	正職員	千円 ×人工	7,616 × 0.1	7,616 × 0.1	7,515 × 0.1	7,515 × 0.1				
	他の職員	千円 ×人工	×	×	×	×				

3. Check – 評価 –							
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1.妥当である			
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		1.妥当である			
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		2.変わらずにある			
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1.妥当である			
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある			
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？		2.中位			
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある			
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		1.検討可能である					
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		1.妥当である				
	<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地 はある	理由	男性受講者の満足度の高さから、より一層の男性受講者増加を目指すため、開設講座の検討をする。			
4. Action – 改善 –							
事業の改善	<34> 事業の課題・ 事業の改善点		男性の受講が見込めるようなニーズに沿った講座や、夫婦・親子での参加可能な講座を検討し開講する。				
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	2.変更	理由	男性も含め、各人が望む生き方の選択肢、一助となるような講座を開設するとともに、参加することへの躊躇や気後れなどの障壁が発生しないような方策を検討するよう努めること。		
	<36> 2次評価	教育部長	2.変更	理由	社会の変化に対応しながら、地域住民のニーズや満足度を捉え、男女共に生涯学習への興味・関心をもてるような魅力的な講座を開設し、男性受講率の向上に努めること。		
5 Plan – 計画 –							
事業の計画	<37> 実施計画・ 今後の方針		<ul style="list-style-type: none"> ・男性受講率を考慮した講座を企画する。 ・年2回、前期・後期に分けて公民館講座を実施する。 ・企画した各講座は、地元自治会をとおして案内チラシの配布・広報掲載(5月・10月号)や、ホームページへ掲載して周知する。 ・講座終了時にはアンケートを実施し、次の講座企画へ活かす。 				
	<38>活動・成果目標		女性と比べて公民館講座への参加が少ない男性も、受講をきっかけとして生涯学習や地域コミュニケーションの場に触れることで、生きがいや社会参画の意欲を醸成する。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
					千円	1,081	1,081
			事業費等	千円	330	330	
			人件費	千円	751	751	

小山市教育委員会 点検・評価シート

No. 15

1. 基本情報									
<1> 事業・業務名	間々田公民館 家庭教育学級 ふれあい子育て楽級			<2> 事業・業務の別	事業				
<3> 選定基準	① 社会環境等の状況変化により、再検証が必要と思われる事務事業			<4> 継続業務・新規業務の別	継続評価				
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)	教育委員会			
	中項目	3-4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境			<7> 担当所属	間々田公民館			
	小項目	3-4-1 生涯学習			<8> 担当係等	業務係			
	施策	生きがいや楽しみを創造し生活を向上させるための学習の充実							
<9> 根拠法令・計画等	社会教育法		<10> 関連・類似事業						
<11> 会計	一般	会計	<12> 予算科目	10 款	4 項	2 目			
<13> 実施期間	年度 ~	年度	<14> 全体事業費	千円					
<15> 実施手法	直営		「その他」の場合 ()						
2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要	子育て中の保護者を対象とした様々なテーマの講座を実施する。								
目的	<17> 事業・業務の目的	家庭教育でも活かせる知識の習得はもとより、同年代の子どもを育てている保護者とのふれあいを通し、育児の相談や情報交換ができる仲間づくりを目指す。							
	<18> 事業・業務の対象	間々田・乙女地区内小学生の保護者							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	従来は全5回開催であったが、6回に増やして実施した。①家庭教育講話と落語鑑賞②車屋美術館見学③料理実習Ⅰ④料理実習Ⅱ⑤初心者向けヨガ体験⑥アロマ体験(ハンドクリーム作りと手浴)							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
		講座開設日数	回	計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
			5	4	6	6	100.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	各回ごとに参加を募るため、回によって参加者数が異なっており、家庭教育講話(落語)、料理実習、アロマ体験の参加が多かった。託児を設けていたが託児を希望する受講者はいなかった。令和4年度参加申込者数は15名であった。参加者満足度はアンケート回答者が全員「良かった」と回答した。							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
		参加実人数	人	計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
			20	13	54	39	72.2%		
		参加者満足度	%	100	87	100	100	100.0%	
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度			
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
				364	364	390	382	97.9%	
		事業費等	千円	28	28	30	22	73.3%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
	一般財源	千円	28	28	30	22	73.3%		
	人件費	千円	336	336	360	360	100.0%		
	正職員	千円×人工	7,616 × 0.0	7,616 × 0.0	7,515 × 0.0	7,515 × 0.0			
	他の職員	千円×人工	1,677 × 0.2	1,677 × 0.2	1,797 × 0.2	1,797 × 0.2			

3. Check - 評価 -						
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1.妥当である		
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		1.妥当である		
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		2.変わらずにある		
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1.妥当である		
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある		
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？		1.大きい		
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある		
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		2.検討は困難である				
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		1.妥当である			
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由	参加者同士が交流できるような講座を企画し、「雰囲気良く、友人ができる」と言われるような教室作りに取り組んでおり、リピーターも獲得している。また、小さなお子さんを持つ親が参加できるよう、託児ボランティアを設けている。間々田・乙女地区内小学生の生徒数を考慮すると、新規参加者増加の余地はある。		
4. Action - 改善 -						
事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点		受講生は毎年参加するリピーターと新規参加者に両極化している。リピーターを増やすためには「来てよかった」と感じてもらえるよう、内容を工夫し続けることが必要である。コンスタントに20名集める事業にしていきたい。			
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	当学級を受講することで、習得した知識を親子間の家庭教育に活かすことができる。また、普段接することがない保護者間同士の交流が生まれ、新たなつながりを作ることができる。このことから、当事業を行う意義は大きいと考える。引き続き、子育て中の保護者のニーズを満たせる講座を企画開催する必要がある。	
	<36> 2次評価	教育部長	3.現状維持	理由	人との繋がりが希薄となりつつある現代において、当事業は、同年代の子どもを育てる保護者同士で交流し、子育ての悩みを共有することができる貴重な機会を提供している。また、大人になってからも学ぶ楽しさを知ることができるため、生涯学習の役割を果たしている。社会教育指導員の教育者としての豊富な経験が活かせる事業であり、保護者の支えになる活動として、引き続き継続することを期待する。	
5. Plan - 計画 -						
事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針		令和5年度は募集チラシを中学校の保護者にも広げた。定員20名。 ①アサーション・トレーニング②笑いヨガ③料理実習Ⅰ④料理実習Ⅱ⑤車庫美術館見学⑥アロマ体験(リップクリーム作り、オイル美容液作り)			
	<38> 活動・成果目標	・家庭教育でも活かせる知識習得の支援 ・保護者間の交流、仲間づくりの場の提供	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
				千円	382	382
				事業費等	千円	22
人件費	千円	360	360			

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No. 17

1. 基本情報									
<1> 事業・業務名		寒川公民館 学級・講座等開設事業			<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		① 社会環境等の状況変化により、再検証が必要と思われる事務事業			<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価		
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境			<7> 担当所属		寒川公民館		
	小項目	3-4-1 生涯学習			<8> 担当係等		—		
	施策	生きがいや楽しみを創造し生活を向上させるための学習の充実							
<9> 根拠法令・計画等		社会教育法、第3次小山市生涯学習推進計画		<10> 関連・類似事業					
<11> 会計		一般	会計	<12> 予算科目		10 款 4 項 2 目			
<13> 実施期間		年度 ~	年度	<14> 全体事業費		千円			
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		学級・講座等を通じて、学習をする機会及び住民同士の交流機会を提供する。							
目的	<17> 事業・業務の目的	生きがい・楽しみを発見する学習機会をつくるとともに、学級・講座等の参加者同士の交流を深めることで地域社会の活性化を目的とする。							
	<18> 事業・業務の対象	寒川地区住民、小山市民、公民館利用者							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	【講座】4講座(3講座×3回、1講座×3回) 【女性学級 女思会～絆】開催9回 【高齢者学級 はつらつクラブ】開催9回 【子どもクラブ】2回 【絵本でこんにちは】5回							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		講座・学級数	回	31	20	38	38	100.0%	
成果	<21> 事業・業務の成果	アンケートや受講者からの希望を聞き取り、講座を企画したところ、新規の寒川地区内外の受講申し込み者がいた。また、学級の館外研修はコロナ禍で県外ではなく市内で行ったが、学級生には好評であった。							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		延べ受講者数	人	367	131	417	276	66.2%	
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度			
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
			千円	3,401	3,276	3,245	3,159	97.3%	
		事業費等	千円	1,877	1,752	1,742	1,656	95.1%	
			財源内訳	国・県補助金	千円				
				地方債	千円				
				その他	千円				
	一般財源	千円	1,877	1,752	1,742	1,656	95.1%		
人件費	千円	1,524	1,524	1,503	1,503	100.0%			
	正職員	千円	7,616 × 0.2	7,616 × 0.2	7,515 × 0.2	7,515 × 0.2			
	他の職員	千円 × 人工	×	×	×	×			

3. Check – 評価 –

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2.変わらずにある
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？	2.中位
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？	1.検討可能である
	公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	1.妥当である
	<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由 講座、学級の参加者が固定化し、人気のあった「キムチづくり講座」が、講師都合により開催できなくなった。そのため、アンケートを実施したり、受講者への聞き取りで講座を企画し、新規の受講生、男性の受講生が増えたが、今後、さらに新しい受講生の確保を図りたい。

4. Action – 改善 –

事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点	受講生が女性中高年層に固定化しているため、新規受講生を増やすことが課題となっている。そのために、現在の受講生の希望も取り入れつつ講座を企画するほか、多くの人に講座を知ってもらうための広報の強化を図る。特に、講座等については、アンケート、地域住民とのコミュニケーション、他の公民館や他自治体の事例研究などから検討し、企画する。		
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	2.変更	理由 受講生が固定化しつつあるので、受講生や住民の意見を取り入れて、講座、学級の企画し、新規の受講生の確保を図りたい。そして、公民館を生涯学習の機会及び交流の場になるようにしたい。
	<36> 2次評価	教育部長	2.変更	理由 民間企業の無料講座の活用を検討しつつ、住民との意思疎通を図りながら、ニーズをとらえ、学習意欲を満たすような講座及び学級の企画を提案して欲しい。

5. Plan – 計画 –

事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針	【募集方法】寒川地区全戸配布、2次元コードによる募集等 【講座】6回【女性学級 女思会～絆】開催9回 【高齢者学級 はつらつクラブ】開催9回 【子どもクラブ】2回【ふれあい学級】1回【絵本でこんにちは】2回 ※講座の企画資料として、アンケートを実施 ※民間企業等の無料講座の導入 ※老人クラブ等団体との連携の検討				
	<38> 活動・成果目標	講座、学級を通じて、受講者同士の交流を生み出すほか、生きがい、楽しみを発見する機会を提供する。その機会を得ることで地域の活性化を図る。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
			千円		3,601	3,601
			事業費等	千円	1,859	1,859
			人件費	千円	1,742	1,742

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No.	19
-----	----

1. 基本情報										
<1> 事業・業務名	中公民館 学級・講座開設事業				<2> 事業・業務の別	事業				
<3> 選定基準	④ その他				<4> 継続業務・新規業務の別	継続評価				
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)	教育委員会				
	中項目	3-4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境			<7> 担当所属	中公民館				
	小項目	3-4-1 生涯学習			<8> 担当係等	—				
	施策	生きがいや楽しみを創造し生活を向上させるための学習の充実								
<9> 根拠法令・計画等	社会教育法				<10> 関連・類似事業					
<11> 会計	一般		会計		<12> 予算科目	10 款 4 項 2 目				
<13> 実施期間	年度 ~		年度		<14> 全体事業費	千円				
<15> 実施手法	直営				「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -										
<16> 事業・業務の概要	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策をとりながら、生きがいづくり、ものづくりに対応する学習とともに、地域の特性を活かした講座の開設。									
目的	<17> 事業・業務の目的	住民の学習ニーズを踏まえ、地域の特性を活かした講座を開設し、生涯学習の場を提供するもの。								
	<18> 事業・業務の対象	中地区および周辺地域住民								
手段	<19> 令和4年度の活動内容	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じて、講座を開設した。								
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
	講座開設数	講座数	6	5	7	7	達成率(%)	100.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	公民館を通して地域交流を図るとともに、生涯学習の機会を提供し、学習意欲に寄与する。								
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
	延べ受講者数	人	77	74	118	108	達成率(%)	91.5%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度				
			千円	1,042	839	920	888	投入率(%)	96.5%	
		事業費等	千円	280	77	168	136	81.0%		
			財源内訳	国・県補助金	千円					
				地方債	千円					
				その他	千円					
		一般財源	千円	280	77	168	136	81.0%		
人件費	千円	762	762	752	752	100.0%				
正職員	千円 × 人工	7,616 × 0.1	7,616 × 0.1	7,515 × 0.1	7,515 × 0.1					
他の職員	千円 × 人工	×	×	×	×					

3. Check - 評価 -						
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1.妥当である		
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		1.妥当である		
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		2.変わらずにある		
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1.妥当である		
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある		
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？		2.中位		
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある		
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		1.検討可能である				
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		1.妥当である			
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由	新型コロナウイルス感染症対策の緩和のため、令和3年度より延べ受講者数が増加した。しかし、感染症拡大以前と比べ、依然大きく下回っており、受講者の参加数が低迷している現状である。そのため、地域住民の学習ニーズの把握に務めるとともに、引き続き生涯学習の場を提供していくことで、受講者の拡大を図る。		
4. Action - 改善 -						
事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点		受講者の拡大を図るため、アンケート調査等を実施しながら講座内容等を検討するとともに、地域住民の学習ニーズの把握に努める。			
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	人と人とのつながりが薄れ、地域連携が低下する中、公民館事業を通して、仲間として学び合うことにより、人間関係を深め、地域力を向上させることが重要と考えます。これからも、地域学習の拠点として、住民に寄り添った講座・学級を開設していただきたい。	
	<36> 2次評価	教育部長	3.現状維持	理由	社会構造が複雑になり、新たな地域課題が増加する中で、地域学習の拠点として、多様な学習機会・学習情報を提供する、公民館事業の役割は大きなものとなっている。地域住民の教養の向上・健康の増進・生活文化の振興・社会福祉の増進のため、引き続きコロナ感染対策を講じ学習機会の提供を図っていただきたい。	
5. Plan - 計画 -						
事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針		地域住民の学習ニーズの把握に努めるため、令和4年度・令和5年度前期に実施したアンケート調査をもとにした講座の開催を計画していく。また、講座の対象者について、中地区以外の方も受講されることが少なくないことから、他館へのチラシ設置を検討する等、広報の方法を検討していく。			
	<38> 活動・成果目標	令和5年度 前期(6~7月)講座 3講座 後期(11~1月)講座 3講座	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
				千円	870	920
				事業費等	千円	168
人件費	千円	702	752			

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No. 20

1. 基本情報							
<1> 事業・業務名		穂積公民館学級・講座開設事業			<2> 事業・業務の別		事業
<3> 選定基準		④ その他			<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)		教育委員会
	中項目	3-4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境			<7> 担当所属		穂積公民館
	小項目	3-4-1 生涯学習			<8> 担当係等		—
	施策	生きがいや楽しみを創造し生活を向上させるための学習の充実					
<9> 根拠法令・計画等				<10> 関連・類似事業			
<11> 会計		一般	会計	<12> 予算科目		10 款 4 項 2 目	
<13> 実施期間		年度 ~	年度	<14> 全体事業費		千円	
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()			

2. Do - 実施 -

<16> 事業・業務の概要		地域住民や公民館利用者の学習意欲に応える学級・講座を開催することにより、生涯学習の機会を提供し、参加者の交流の場を提供することで「地域づくり」「ひとづくり」を目指す。							
目的	<17> 事業・業務の目的	生きがいや楽しみにつながるような生涯学習の場を提供することで、地域の活性化および生活の向上を図る。							
	<18> 事業・業務の対象	小山市民、公民館利用者							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	にこにこひろば(未就学児学級)、親子学級、女性サロン、悠々クラブ(高齢者学級)、あらかん塾(還暦を過ぎた男性学級)、成人向け講座(穂積の歴史講座、布のアクセサリー講座、ゆったりストレッチ&ヨガ講座、渡良瀬遊水地見学講座、美文字講座、骨骨あつぷ講座、絵手紙講座)の実施							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		学級・講座数	件	11	13	11	12	109.1%	
成果	<21> 事業・業務の成果	各学級・講座の実施回数及び参加人数							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		講座実施回数	回	57	40	59	48	81.4%	
		参加者数	人	240	187	190	162	85.3%	
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度			
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
			千円	4,200	4,158	4,220	4,164	98.7%	
		事業費等	千円	297	255	302	246	81.5%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
その他	千円								
	一般財源	千円	297	255	302	246	81.5%		
	人件費	千円	3,903	3,903	3,918	3,918	100.0%		
	正職員	千円×人工	7,616 × 0.3	7,616 × 0.3	7,515 × 0.3	7,515 × 0.3			
	他の職員	千円×人工	1,797 × 0.9	1,797 × 0.9	1,847 × 0.9	1,847 × 0.9			

3. Check - 評価 -						
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1.妥当である		
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		1.妥当である		
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		2.変わらずにある		
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1.妥当である		
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある		
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？		2.中位		
効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある			
	<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		1.検討可能である			
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		1.妥当である			
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由	未就学児学級の参加申込が少なく、何回か講座を中止した。また、地区で感染者が増えた時期に、申込を多数いただいていたが、調理を行う講座を中止した。感染症対策を十分に行い、参加者が楽しめる講座を実施していきたい。		
4. Action - 改善 -						
事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点		受講生が固定化してきているので、他館の事例を参考に、気軽に参加できる講座を企画する。また、アンケートを行ったり、公民館運営審議会委員や公民館利用者に意見を聞いて、多様化するニーズに合った学級・講座を企画する。健康に役立つ講座は人気なので、継続して実施していきたい。開催の際は、感染対策に留意して運営していく。			
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	身近な公民館で開催する学級・講座は、楽しみながら学べる環境を提供し、受講生どうしの交流の場となっている。より多くの住民が生涯学習に触れる機会を得られるよう、性別に関わらず参加しやすい講座を企画していきたい。	
	<36> 2次評価	教育部長	3.現状維持	理由	地域学習の拠点として地域住民の教養の向上や健康増進を促進し、交流の場として地域の活性化に寄与していく学級・講座の開催は有益なものとする。引き続き感染対策を講じた上で、受講者の学習意欲を刺激するような講座を実施してほしい。	
5. Plan - 計画 -						
事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針		ここにこひろば(未就学児学級)、親子学級、女性サロン、悠々クラブ(高齢者学級)、あらかん塾(還暦を過ぎた男性学級)、成人向け講座の実施			
	<38> 活動・成果目標	生きがいや楽しみにつながる生涯学習の場を市民に提供するとともに、参加者のコミュニケーションの場を提供することで、「地域づくり」「ひとづくり」を目指す。	<39> コスト計画	単位	令和5年度	令和6年度
				千円	計画	計画
事業費等	千円	302	302			
人件費	千円	3,918	3,918			

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No. 21

1. 基本情報									
<1> 事業・業務名		桑公民館学級(高齢者・家庭教育)開設事業			<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		④ その他			<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価		
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境			<7> 担当所属		桑公民館		
	小項目	3-4-1 生涯学習			<8> 担当係等		業務係		
	施策	生きがいや楽しみを創造し生活を向上させるための学習の充実							
<9> 根拠法令・計画等		<10> 関連・類似事業							
<11> 会計		一般	会計	<12> 予算科目		10 款 4 項 2 目			
<13> 実施期間		年度 ~	年度	<14> 全体事業費		千円			
<15> 実施手法		直営 「その他」の場合 ()							
2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		学習意欲のある市民に学習の機会と場を提供する。							
目的	<17> 事業・業務の目的	「生きがいづくり」「人間関係づくり」「健康づくり」のきっかけや生涯にわたる学習活動を支援・促進することを目的とする。							
	<18> 事業・業務の対象	①桑かがやき学問(概ね60歳以上の主に桑地区住民) ②親子体験室(桑地区内の小学生親子) ③思春期講座・子育て講演会(桑地区内小中学生)							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	①桑かがやき学問:講座全8回 ②親子体験室:講座全6回 ③思春期講座:年1回							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		学級開講延べ数	数	12	8	15	15	100.0%	
	学級開講時間	時間	28	15	30	30	100.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	学級を開設することで「生きがいづくり」「仲間づくり」「健康づくり」のきっかけをつくり、活動を共有することで受講者同士の交流を深めることができた。親子のふれあいを通して、参加者同士の交流を深め、楽しく学ぶことができた。							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		学級の受講生	人	240	148	490	416	84.9%	
	男性の受講生	人	30	14	160	132	82.5%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度		投入率(%)	
			千円	計画	実績	計画	実績		
			千円	1,764	1,720	1,904	1,870	98.2%	
		事業費等	千円	87	43	88	54	61.4%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
一般財源	千円	87	43	88	54	61.4%			
人件費	千円	1,677	1,677	1,816	1,816	100.0%			
正職員	千円	7,616 × 0.0	7,616 × 0.0	7,515 × 0.0	7,515 × 0.0				
他の職員	千円 × 人工	1,677 × 1.0	1,677 × 1.0	1,816 × 1.0	1,816 × 1.0				

3. Check – 評価 –

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である	
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である	
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2.変わらずにある	
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である	
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある	
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？	2.中位	
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある	
		<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？	2.検討は困難である	
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	1.妥当である		
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由	男性の受講者が極端に少なく、性別の偏りがあることと、受講者の固定化がある。また限られた予算の中で受講者のニーズに合った講師の選定が難しい。

4. Action – 改善 –

事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点		受講生が固定化しないよう、性別に関わらず参加しやすい講座を企画する。講師の選定にあたり、様々な情報の収集に努める。	
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	2.変更	理由 地域住民の学習に対する多様な需要を踏まえ、性別に関わらず多くの方が参加しやすく、興味の持てる学級内容や、募集の方法を考えていく必要がある。
	<36> 2次評価	教育部長	2.変更	理由 地域住民の一番身近な学びとコミュニケーションの場として生涯学習の充実を目指していくことが公民館事業の責務である。企画内容について住民との意思疎通を図りながらニーズをとらえ学習意欲を満たすような企画を検討してもらいたい。

5. Plan – 計画 –

事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針		①桑かがやき学問:「睡眠」と「健康」の知恵袋講座・ハーバリウム作り・人権学習・笑いヨガ・館外学習・寄せ植え・間々田ひも体験(全7回) ②親子体験室:ブルーベリー摘み&ピザ作り・お仕事体験・バルーンアート・シタケを知ろう・英語で遊ぼう・どら焼き作り体験(全6回) ③思春期講座・子育て講演会(各1回)			
	<38> 活動・成果目標	生きがいや楽しみにつながる生涯学習の機会やコミュニケーションの場を多くの人に提供し、「地域づくり」「仲間づくり」「健康づくり」ができるようにする。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
			事業費等	千円	1,912	1,912
			人件費	千円	96	96
				千円	1,816	1,816

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No. 22

1. 基本情報									
<1> 事業・業務名		絹公民館 学級・講座等開設事業			<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		④ その他			<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価		
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり			<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境			<7> 担当所属		絹公民館		
	小項目	3-4-1 生涯学習			<8> 担当係等		—		
	施策	生きがいや楽しみを創造し生活を向上させるための学習の充実							
<9> 根拠法令・計画等		社会教育法・第8次小山市総合計画・小山市生涯学習推進計画		<10> 関連・類似事業					
<11> 会計		一般	会計	<12> 予算科目		10 款 4 項 2 目			
<13> 実施期間		年度 ~	年度	<14> 全体事業費		千円			
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		市民のための生涯学習の場、地域づくりの場として各種講座を開催する。							
目的	<17> 事業・業務の目的	生涯学習の場を提供し、生きがいや楽しみを発見する手助けをし、豊かな人、地域を創ることで地域の活性化を図る。							
	<18> 事業・業務の対象	絹地区住民							
手段	<19> 令和4年度の活動内容	正しく学ぼうお金の知識講座・パーソナルカラー講座・スマホ講座・セルフリンパマッサージ講座・高齢者学級・家庭教育学級を実施した。							
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		講座開講数	回	7	5	6	6	100.0%	
	講座受講者数	人	—	—	254	229	90.2%		
成果	<21> 事業・業務の成果	満足度の高い講座・学級を開設し、自己学習を促すとともに、人材育成し、もって地域学習力を向上させ、地域活性化を図る							
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		延べ受講者数	人	134	111	254	229	90.2%	
	受講生満足度	%	—	—	80.0	83.8	104.8%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和3年度		令和4年度			
			千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
			千円	935	860	964	906	94.0%	
		事業費等	千円	173	98	212	154	72.6%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
	一般財源	千円	173	98	212	154	72.6%		
人件費	千円	762	762	752	752	100.0%			
	正職員	千円	7,616 × 0.1	7,616 × 0.1	7,515 × 0.1	7,515 × 0.1			
	他の職員	千円 × 人工	×	×	×	×			

3. Check – 評価 –

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である	
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である	
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2.変わらずにある	
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である	
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある	
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？	2.中位	
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある	
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		1.検討可能である		
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	1.妥当である		
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由	受講者の高齢化、固定化の傾向がある。受講者の満足度、新規受講者増加のためにも、魅力的な講座開催のためにも、住民ニーズの把握、開催日時について検討する必要がある。

4. Action – 改善 –

事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点	受講者が女性中高年層に固定化しているため、新規受講生増加が課題である。アンケート結果より、住民ニーズの把握、開催時期、周知方法を見直し、より広い世代に参加してもらえる講座、学級を計画する。		
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由 受講生の満足度を維持しつつ、住民ニーズの把握、開催時期の見直しにより新規受講生増加を目指してほしい。公民館を拠点した、生涯学習の機会を多くの住民が享受することにより、地域活性化が図られる。
	<36> 2次評価	教育部長	3.現状維持	理由 講座、学級開設の目的は、生涯学習の場を提供し、自主学习を促し、人材育成を支援することで、地域学習力を向上させ、地域活性化を目指すことである。これからも、地域活性化拠点としての公民館で、地域住民の求める講座をより多く開催し、地域学習力の向上に寄与していただきたい。

5. Plan – 計画 –

事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針	スタンドグラス講座・ビューティフルライフ講座・スマホ講座・高齢者学級・家庭教育学級を計画。				
	<38> 活動・成果目標	満足度の高い、講座、学級を開設し、生涯学習の意識、社会参画の意識を醸造を促し、受講後は自主活動につながるよう支援を行う。	<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
			事業費等	千円	964	964
			人件費	千円	752	752

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和5年度版

No.	12
-----	----

1. 基本情報										
<1> 事業・業務名		小山市あいさつ運動				<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		④ その他				<4> 継続業務・新規業務の別		継続評価		
総合計画 基本計画 での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとづくり				<6> 担当部(局)		教育委員会		
	中項目	3-4 豊かな人と地域を創る生涯学習環境				<7> 担当所属		生涯学習課		
	小項目	3-4-2 青少年育成				<8> 担当係等		青少年係		
	施策	青少年が活動できる場の充実								
<9> 根拠法令・計画等						<10> 関連・類似事業				
<11> 会計		一般		会計		<12> 予算科目		10 款 4 項 6 目		
<13> 実施期間		年度 ~		年度		<14> 全体事業費		37 千円		
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()						
2. Do - 実施 -										
<16> 事業・業務の概要		「あいさつ」からコミュニケーションが始まり、地域交流がはかられることから、子どものうちからの習慣づけをはかる。強調月間にはのぼり旗を設置する。また、児童や生徒に対し、あいさつ運動のポスターと標語を公募し、青少年健全育成・青少年の主張作文コンクールの際に優秀賞と入選のみ展示する。								
目的	<17> 事業・業務の目的	地域の人々や行き交う人々が日常生活の中で、「あいさつ」を交わすことにより、交流が生まれ、「ふれあいと心の豊かさ」や「郷土愛」を育み「豊かで活気があり、暮らしやすい小山」を市民協同で築いていく環境を作ること。								
	<18> 事業・業務の対象	小山市内小・中・義務教育学生								
手段	<19> 令和4年度の活動内容	4月と10月にあいさつ旗を設置。7月21日(木)から9月16日(金)の期間あいさつ運動の作品を公募し、9月27日(火)に審査会を行った。11月19日(土)に開催された、第17回青少年健全育成・青少年の主張作文コンクールの際に、あいさつ運動のポスターと標語の優秀賞と入選の作品について展示した。入選者には賞状、優秀賞受賞者には賞状と盾が賞品として贈られ、学校長から表彰してもらっている。								
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
		応募者数	人	500	885	500	1,815	363.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	あいさつ運動の輪を広げ、ふれあいと心の豊かさ、郷土愛を育み、豊かで活力のある小山市を築くことを目的とした「小山市あいさつ運動」の普及を図る								
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和3年度		令和4年度				
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
		優秀賞	人	6	6	6	6	100.0%		
		入選	人	60	55	60	55	91.7%		
資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績		単位	令和3年度		令和4年度			
				千円	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
				千円	8,422	8,411	8,304	8,295	99.9%	
		事業費等		千円	44	33	37	28	75.7%	
		財源内訳	国・県補助金	千円						
			地方債	千円						
その他	千円									
	一般財源	千円	44	33	37	28	75.7%			
	人件費	千円	8,378	8,378	8,267	8,267	100.0%			
	正職員	千円 × 人工	7,616 × 1.1	7,616 × 1.1	7,515 × 1.1	7,515 × 1.1				
	他の職員		×	×	×	×				

3. Check - 評価 -							
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？		1.妥当である			
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？		1.妥当である			
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？		4.市民ニーズによるものではない			
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？		1.妥当である			
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？		2.向上の余地はない			
		<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか？		2.中位			
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？		1.向上の余地はある			
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		2.検討は困難である					
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？		1.妥当である				
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由	公募制移行前と比較すると、作品の応募数が大幅に増加している。このことから、本事業の認知度が年々高まっていると思われ、多くの市内の小・中・義務教育学生にとって、作品作りを通して改めてあいさつについて考える良い機会になっていると考えられる。			
4. Action - 改善 -							
事業の改善	<34> 事業の課題・事業の改善点		令和2年度に公募にしてから3年目となるが、昨年と比較すると応募総数は2倍以上増加した。青少年のあいさつに対する意識を高める良い指標になると思われることから、今後も周知・促進を図る。改善点としては、青少年係で管理する数が増えたため、返却するまでの作品の管理についての見直し等、管理しやすい方法を考えていく必要がある。そのため、作品を預かってから、返送するまでの管理の仕方が課題である。				
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	2.変更	理由	あいさつはコミュニケーションの始まりでもあり、市民の関心は高い事業であると思われるので、今後も継続していきたい。子ども達の思いの詰まった作品なので、保管場所等を新たに確保し、大切に管理してほしい。		
	<36> 2次評価	教育部長	2.変更	理由	参加者が倍以上に増えているのは、関心が高まっていることだと思うので、前例に捉われず、創意工夫を凝らして取り組んでほしい。		
5. Plan - 計画 -							
事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針		4月と10月にあいさつ旗を設置。 7月21日(金)から9月11日(月)の期間あいさつ運動の作品を公募し、9月下旬に審査会を行う。11月18日(土)に開催する、第18回青少年健全育成・青少年の主張作文コンクールの際に、あいさつ運動のポスターと標語の優秀賞と入選の作品について展示する。				
	<38> 活動・成果目標	ポスターや標語といった作品作りを通して、小山市内小・中・義務教育学生に、あいさつの大切さを改めて考えてもらい、普段から積極的にあいさつができるようになってもらう。		<39> コスト計画	単位	令和5年度 計画	令和6年度 計画
				事業費等	千円	8,302	8,302
人件費	千円	35	35	8,267	8,267		

